

令和7年度の学校評価

重点目標	①児童生徒及び職員の人権を守り、多様な一人一人を認め合う学校づくりを進める。 ②児童生徒が安心安全に学習できる場となるように環境整備を進める。 ③「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指した授業改善に取り組む。 ④交流及び共同学習を充実させ、卒業後も見据えた関係諸機関との連携体制を整える。 ⑤学校内外の研修の機会をととして肢体不自由教育における専門性の向上に努める。 ⑥教育活動の充実と職員の働きがいの向上を目指し、業務内容の見直しをする。	
	具体的方策	留意事項
	①	・児童生徒の思いや考えを尊重した指導支援を行う。 ・児童生徒の実態に合わせ、自分のよいところを見つけるなど人権に関する授業を行う。 ・職員一人一人が言動に気を付け、児童生徒の人権に配慮した指導・支援を心がける。 ・児童生徒一人一人が、自分や周りの友達のことを考え行動できる心を育てる。
	②	・防災に対する知識や理解を深める。 ・防災の種類に応じた実践的な訓練を計画し、避難訓練に取り組む。 ・事故防止に向けた取組を行う。 ・学年会計の処理方法の変更の周知・徹底する。 ・災害発生時の対応について職員間で共有し、よりよい方法を考察して周知する。安心安全な避難方法を確立し、訓練に生かしていく。 ・ヒヤリハット発生時の情報収集及び集約の効率的で確実な方法を検討し、実施する。 ・ヒヤリハット及び事故の情報を速やかに全職員に周知し、事故防止に対する職員の意識を高める。 ・4月に係会を開き変更について周知し、学年会を通じて全体へ周知する。会計締め日には各係で会計処理のミスがないかのチェックを徹底する。不具合があれば修正する。
	③	・児童生徒一人一人の実態に合った目標、手だてを設定し個別最適な学びの充実を図るとともに、学習集団を工夫して協働的な学びの機会を増やす。 ・個別的教育支援計画、個別の指導計画、年間指導計画等の様式を活用し、関係の職員で連携を図る。 ・教育活動において、児童生徒が自身の力を十分発揮できるように、個に応じた情報機器や支援機器の利活用を進める。 ・新規配備された教員用タブレット端末の活用がスムーズに進むように、環境整備や利活用の啓発を行う。 ・教職員の情報機器や支援機器の活用スキルが高まるように、情報の提供やニーズに応じた研修会を実施する。
	④	・円滑な進路選択ができるように、進路に関する情報を家庭と学校が共有する。 ・生活介護や就労継続支援等の事業所へ訪問し、情報収集をする。集めた情報を懇談や進路ガイド等で提示する。 ・福祉サービスに関する外部講師を招き、研修会を開催する。
	⑤	・校内研修の調整や校外研修の紹介を行い、職員の専門性の向上に努める。 ・各校務分掌と連携し、現職研修の充実を図る。 ・研修に参加することが難しい職員にも内容が分かるように録画や資料の周知を行う。 ・外部研修等を紹介し職員の関心を高め、主体的な参加を促す。 ・児童生徒のニーズを明らかにし、それに応じた支援や自立活動の指導ができるように、研修や自立活動相談の充実を図る。 ・児童生徒の実態をもとにして充実した指導ができるよう、目標設定シートの改善を図る。 ・具体的な指導につながる研修を実施する。 ・外部講師や校内人材を活用する。
	⑥	・児童生徒の成長が実感できる指導・支援の充実を図り、働きがいにつなげる。 ・業務内容を見直すことで授業の準備時間等を確保し、きめ細やかな指導・支援が行えるようにする。 ・毎週1回の定時退校日を設定し、業務の効率化と職員のワーク・ライフ・バランスを図る。 ・職員の働きやすい環境づくりに努める。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		○人権尊重 ○安心安全な学校 ○授業内容の充実